

第 36 回第二言語習得研究会 (JASLA) 全国大会

プログラム

2025 年 12 月 20 日 (土) ・ 21 日 (日)
武蔵野大学有明キャンパス 5 号館 (東京都江東区)

(対面開催／基調講演・シンポジウムのみオンライン配信)

参加費 一般 : 5,000 円 学生 : 3,000 円

大会テーマ

「思い込みを見直そう ―第二言語習得研究と教育実践―」

■ 2025 年 12 月 20 日 (土) ■

12 : 30 受付開始 (2 階学生ホール)

13 : 00～13 : 10 開会式 (301)

司会 : 中島 祥子 (鹿児島大学)

開会宣言 清水 崇文 (第二言語習得研究会 会長)

開催校挨拶 欒 殿武 (武蔵野大学国際センター センター長)

事務局からの連絡

13 : 10～15 : 10 <<基調講演>> (301)

司会 : 山元 一晃 (金城学院大学)

教室の「当たり前」を見直す
―ISLA 研究が示す日本語教師の役割―

鈴木 祐一氏 (早稲田大学)

15 : 10～15 : 20 総会 (301)

15 : 20～15 : 30 休憩
書籍展示

(3 階交流テラス 31)

15 : 30～17 : 30 <<口頭発表>>

【会場 (301)】

司会：品川 なぎさ（防衛大学校）

15 : 30～16 : 00 スリランカ人日本語学習者を対象としたシャドーイング実践効果の検証

下藺 一恵（名古屋外国語大学大学院生）

16 : 00～16 : 30 日本語簡易テスト「SPOT」は本当に言語運用力を測定しているのか –I-JAS 発話データの動詞述部の分析に基づく一考察–

佐々木 藍子（東京科学大学）・小林 典子（元筑波大学）

16 : 30～17 : 00 内容言語統合型学習（CLIL）で学んだ学習者の思考 –学びの過程の違いによる比較–

富田 郁子（名古屋経営会計専門学校）

17 : 00～17 : 30 活動理論および対話論に基づく第二言語学習動機づけの再考察

中村 稔行（オーストラリア国立大学）

■ 2025 年 12 月 21 日（日） ■

09 : 30 受付開始

（2 階学生ホール）

10 : 00～11 : 30 <<ポスター発表>>

（402）

(1) 日本で育った成人日中バイリンガル話者の日本語「名詞・動詞コロケーション」の産出

西川 朋美（お茶の水女子大学）・

岡 加代・周 超珂・唐 姣姣（お茶の水女子大学大学院生）

(2) 上級日本語学習者における質問作成が文章理解に与える影響

–説明予期との比較と文章構造の明瞭性の観点から–

大隈 萌恵（早稲田大学）

(3) J-CAT と SPOT の成績差に関連する学習者属性の分析

–I-JAS 学習者情報データを用いた決定木分析–

范 一楠（横浜国立大学）

- (4) 日常会話に困難がある日本生まれ・育ちの JLL 児童のことばの指導
ー1年4ヶ月間の実践からー

島田 友絵（川崎市国際教室）

- (5) 副教材を工夫した課題遂行型授業の可能性
ー文法積み上げ型との比較による定量的分析ー

坪田 めぐみ（早稲田進学館）

- (6) 内容言語統合型学習（CLIL）による学習者の言語と思考の変容
ー評価活動との関連ー

徐 乃馨（静岡大学）

11：30～13：00 昼休み

11：30～13：00 ≪若手応援企画≫

（1階学生ホール）

「ひょっこり相談島」

進行：瀬尾 匡輝（茨城大学） 西坂 祥平（お茶の水女子大学）

第二言語習得研究や日本語教育分野における若手研究者のネットワーク構築を目的とした「ひょっこり相談島」を開催します。会場には、テーマ別に「大学院生の島」「若手教員の島」「よろず島」の3つのスペースを設けます。参加者は、自身の関心に合わせて島に加わり、自由に意見交換を行うことができます。この企画では、研究に関する相談や、所属機関を超えたネットワークづくりが可能です。進学や就職、キャリア形成について考える機会としても活用できます。各島には、頼れる先輩がファシリテーターとして参加し、みなさんの相談に応じます。昼食を持参し、食事をしながら気軽にご参加ください。研究仲間とのつながりを広げる第一歩として、ぜひお立ち寄りください。

13：00～15：50 ≪シンポジウム≫

（301）

「思い込みを超える日本語教育実践」

コーディネーター：志賀 玲子（武蔵野大学）

趣旨説明

志賀 玲子（武蔵野大学）

日本語教育における発音指導の捉え直し
ー発音指導に対する思い込みを変えるためにー

大久保 雅子（早稲田大学）

読解教育の思い込みを見直す
ー多読の特徴を捉えカリキュラムに位置づけるー

吉川 達（立命館大学）

「ことばは日本語教師, 仕事は現場で」という思い込みからの転換
ー外国人就労者を支える日本語教育ー

嶋 ちはる（国際教養大学）

全体ディスカッション

15 : 50～16 : 00 《閉会式》

(301)

司会：瀬尾 匡輝（茨城大学）